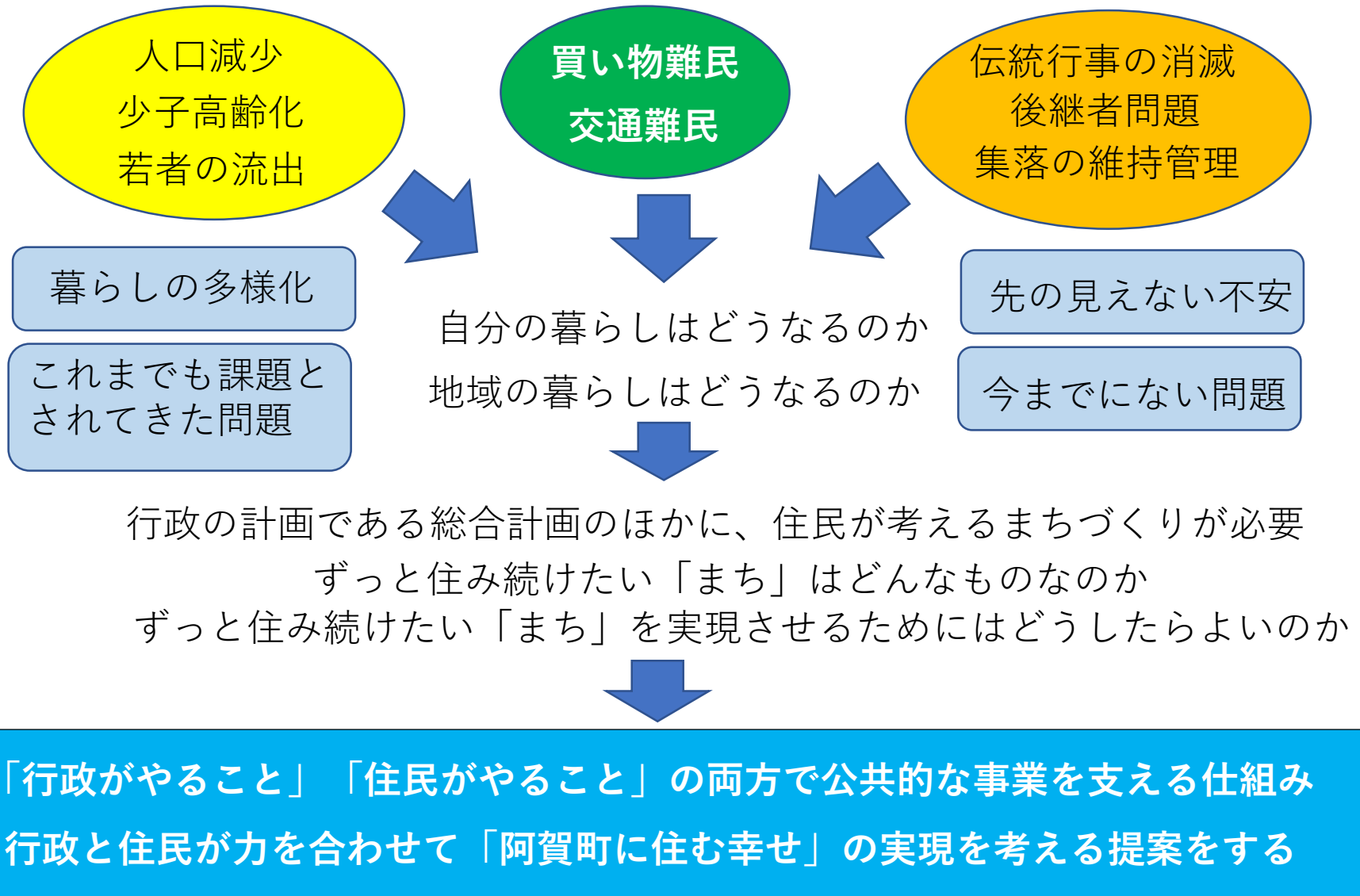


令和元年度

—わたしたちの行動が次の時代のまちをつくる—

まちづくり会議

まちづくり会議の目的は何か



今年度のまちづくり会議の最終目標

住民が自ら公共を支える行動計画をつくる



そのためには...?

大都市の利便性や経済的豊かさに近づこうとする「未来の姿」を描くのではなく、地域の課題を「ワガコト」とし、「地域性にあった新しい未来」のために「自らが実践者となる行動計画」を打ち出していく。



つまり...

「ないものねだり」の計画ではなく、わが町の弱点も強みも受けとめて、ほかの町にはないわが町の特徴を活かした「町民の幸福」の実現のために、「参加者がフロンティア」として実践していく「行動計画」をつくる。そしてアクションを起こしていく。

まちづくり会議は何をするのか

リアリティのない「夢のまちづくり」ではない
リアルな「町の物語づくり」を行う場



多様な人たちが同じテーブルで情報交換、対話、創造的な議論を行うワークショップを行い、参加者のみなさんの知恵や力を引き出す。

「まちづくり」の「種（＝希望）」を探し
「まちづくり」の「種」を育て（＝課題の検討等）
「まちづくり」を実践する（＝行動計画をつくる）

メディアが取り上げる 「地方の成功物語」を疑え

「過疎」「少子化」からすぐに思い浮かべる事業
ワークショップが参加者と運営側の「自己満足」

物事の表層部
しかとらえて
いない

問題解決の
プロセスを
考えない

解決策の立案
だけしかして
いない



解決すべき課題の設定、問題個所の特定、なぜ起こるのかを究明するプロセスを省いて、成功事例の真似をしただけの立案では何も変わらない

都市部が期待する「心温まるきれいな地方の成功ストーリー」

田園回帰

都市部から理想的だと受け取られるような田舎暮らしをする特異な地方移住者にフォーカスした番組

地方に若者を呼び込む
中心商店街の活性化 etc...

B級グルメ

ゆるキャラ

きれいな話だけで問題が解決するのであれば、地方はすでに再生している一過性の話題づくりばかりに奔走し、何の問題も解決されない

「他がやったことがすべての地域でうまくいくはずだ」という思い込みをなくすことが重要

-何をすべきなのか？-

当たり前を疑う 前提を疑う

自分の信じている価値観をすべて疑うことから始める

- ◆これをやったら解決すると思ったことすべてを疑う
- ◆有名な先生の講演会で聞いて「いい！」「これだ！」とひらめいたことも疑ってみる



解決したいと信じ込んでいたものが本当は解決の必要のないかもしれない

ワークショップ参加者に伝えたいこと

見たくない現実をよくみてみましょう

- 町がかかえる問題を直視してみてください。
- 情緒的な意思決定ではなく数字と向き合しましょう
- その場の思い付きを集めてもグッドアイデアは浮かびません。
- 現実と目指すべき未来のギャップを埋めるには、現実の課題から目をそらさないことが大切になります。

参加者は提案の実践者になりましょう

- どんなに夢や希望を語り合い作り上げられたプランでも、プレーヤーがいなければ評価できません。
- 自分たちで考え、行動する「自前主義」がまちを変えます。
本当に必要な専門家の方には、その時々に応じて助けてもらいましょう。

ワークショップの展開

- 第1回 「まちづくりの種を探そう」－まちの魅力と問題点－
- 第2回 「まちの現実を考える」
－将来の課題を把握して未来の物語を考える－
- 第3回 「まちづくりの種を育てるために必要なこと」
- 第4回 「まちづくりの種を育てるために必要なこと」
- 第5回 「まちづくりの種をまこう」
- 第6回 リアルな「まちの物語」（公開の場での発表）